

反射法探査で得られた伊豆・小笠原・マリアナ島弧の地殻構造

Crustal structure around the Izu-Ogasawara-Mariana arc obtained by seismic reflection survey

山下 幹也 [1]; 高橋 成実 [2]; 小平 秀一 [2]; 野 徹雄 [3]; 瀧澤 薫 [4]; 海宝 由佳 [5]; 三浦 誠一 [6]; 佐藤 壮 [3]; 金田 義行 [7]
Mikiya Yamashita[1]; Narumi Takahashi[2]; Shuichi Kodaira[2]; Tetsuo No[3]; Kaoru Takizawa[4]; Yuka Kaiho[5]; Seiichi Miura[6]; Takeshi Sato[3]; Yoshiyuki Kaneda[7]

[1] 海洋研究開発機構; [2] 海洋機構 地球内部変動研究センター; [3] 海洋研究開発機構地球内部変動研究センター; [4] 海洋研究開発機構・IFREE; [5] JAMSTEC; [6] 海洋機構; [7] 海洋機構

[1] JAMSTEC; [2] IFREE, JAMSTEC; [3] IFREE, JAMSTEC; [4] JAMSTEC, IFREE; [5] JAMSTEC; [6] JAMSTEC; [7] JAMSTEC,IFREE

伊豆-小笠原-マリアナ弧は典型的な海洋性島弧であり、太平洋プレートの沈み込み、背弧の拡大およびフィリピン海プレートの北上という複数のプレート運動の影響を受けながら成長している。その複雑な構造形態を把握することは島弧成長過程を明らかにする上で重要である。海洋研究開発機構では2004年から伊豆-小笠原-マリアナ海域において反射法地震探査を実施している。本講演ではこれまで得られた反射断面から断層や貫入等のマッピングを行い、得られた特徴をもとに考察を行う。